

# TOPICS

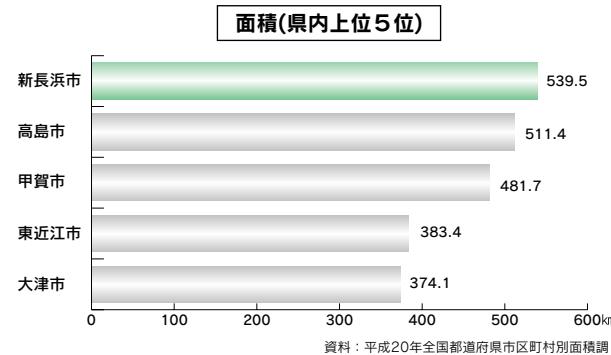
# TOPICS

## 新しい長浜市ってどんなまち

このコーナーでは、来年1月1日に合併する長浜市・虎姫町・湖北町・高月町・木之本町・余呉町・西浅井町の現状と「合併基本計画」の内容を紹介しながら、新しい長浜市の姿を探っていきます。今回は、面積・人口・産業などの現状についてお知らせします。

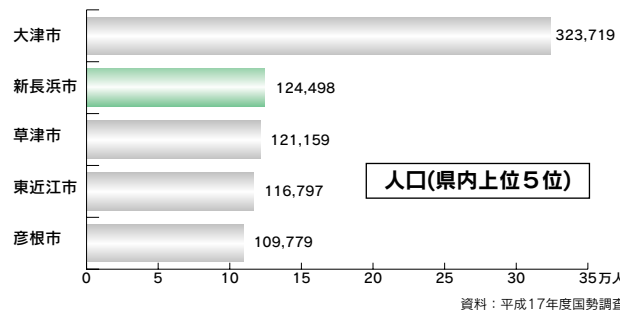
### 面積 ※琵琶湖の分は除く は、県内1位に!

新市は、東西約25km、南北約40km、滋賀県の約14%を占める、総面積**539.48km<sup>2</sup>**のまちになります。また、お隣のまちは福井県の敦賀市と南越前町、岐阜県の揖斐川町、県内では米原市と高島市になります。



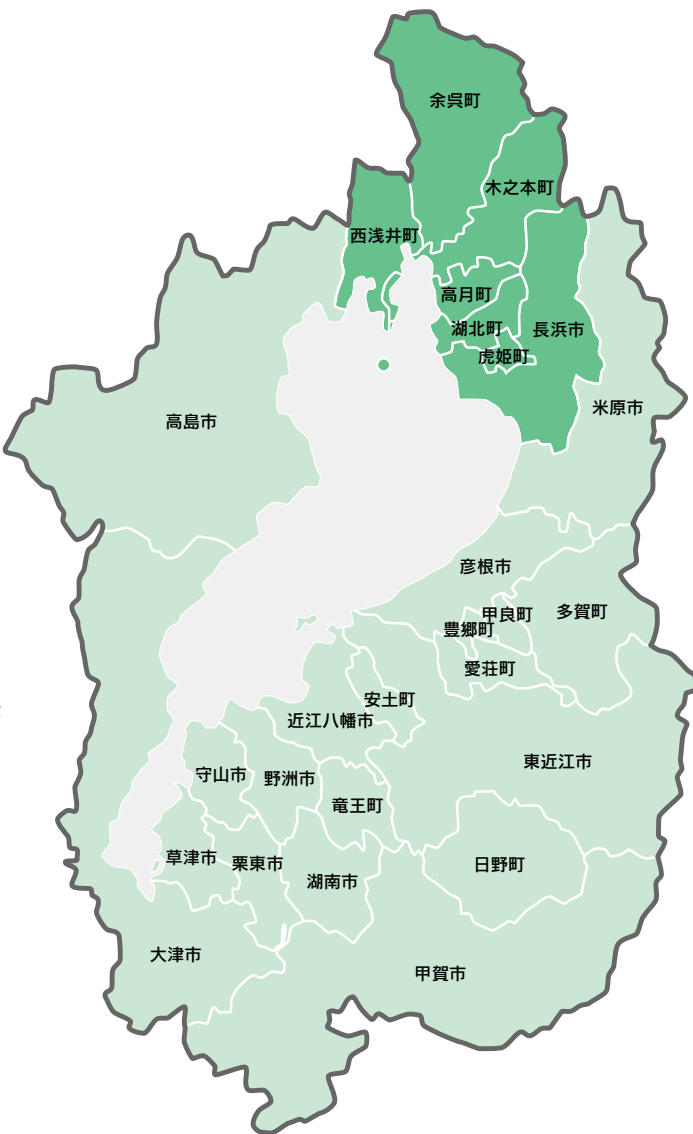
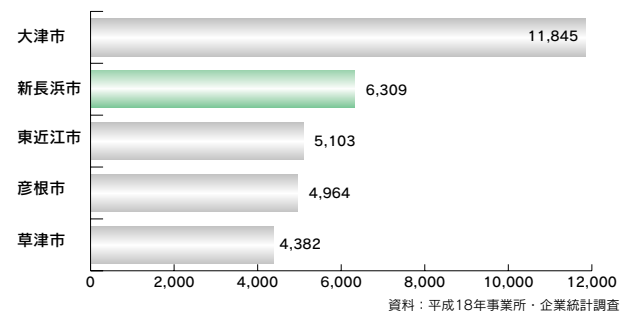
### 人口 は、県内2位に!

新市の人口は、**124,498人**(平成17年度国勢調査数値)となり、滋賀県内では大津市に次いでたくさんの方が住むまちになります。



### 産業 事業所数なども県内2位

平成18年の統計調査によると、新市の事業所数は6,309か所で、うち約2/3が現在の長浜市内にあります。また、新市全体の従業者数は55,836人で、うち第1次産業が530人(1.0%)、第2次産業が20,612人(36.9%)、第3次産業が34,694人(62.1%)となっています。



#### 余呉町

《経緯》古墳時代から開かれ、奈良時代から平安時代にかけて余呉・丹生・片岡の3つの郷を総称して余呉の庄として統治されたのが始まり。  
 《宝物》天女伝説、菊石姫伝説、余呉湖(ワカサギ釣り)、洞寿院、菅山寺、毛受兄弟の墓、玄蕃尾城跡、丹生茶わん祭、ウツテイパル余呉、余呉高原リゾート・ヤップ、旧国鉄「中之郷駅」跡

#### 木之本町

《経緯》上古淡海国の先進地であり、大陸と都を結ぶ要衝地として発達。その後、木之本地蔵院の門前町や北国街道などの宿場町として賑わい、山岳仏教などとともに多彩な歴史・文化を醸成してきた。  
 《宝物》木之本地蔵院(浄信寺)、地藏縁日、北国街道、賤ヶ岳、糸取り資料保存館、石道寺、鶏足寺、己高閣・世代閣、己高庵、大見こいの広場

#### 西浅井町

《経緯》近世から近代にかけて京都・大阪と北陸各地を結ぶ琵琶湖湖上交通の主役であった丸子船によって、物流の要衝として栄えた。  
 《宝物》菅浦・四足門、深坂地蔵、黒山の石仏群、奥びわ湖パークウェイ、ランタの館、体験宿泊施設レントラ、北淡海・丸子船の館、水の駅、塩津街道、山門水源の森、お花見船、ちゃんちゃこ祭り

#### 高月町

《経緯》古代、ケヤキの大木があったことから「高槻」と呼ばれていたが、平安の歌人・大江匡房が月の名所として歌を詠んだことから、「高月」と改められた。また、数多くの観音像が伝わることから「観音の里」と呼ばれている。  
 《宝物》東アジア交流ハウス雨森芳州庵、渡岸寺観音堂(向源寺)、尾山釈迦堂、西野薬師堂、唐川赤後寺、高時川沿いのさくら

### 各地域の歴史と魅力

#### 長浜市

《経緯》天正年間に羽柴秀吉が「今浜」を「長浜」に改名し、小谷城下などの商人たちを集めて、楽市である城下町をつくったのが現在の長浜の基礎となっている。  
 《宝物》長浜城歴史博物館、曳山博物館、曳山まつり、国友鉄砲の里資料館、豊公園、黒壁スクエア、大通寺、長浜きもの大園遊会、鉄道スクエア(旧長浜駅舎)、慶雲館、盆梅展、近江孤蓬庵、五先賢の館、西池、須賀谷温泉、竹生島、南浜水泳場、安楽寺

#### 湖北町

《経緯》縄文時代から人が住みつき、幾多の文化を育んできた歴史のあるまち。特に浅井亮政が築城した小谷城は、久政から長政までの50年間、浅井氏3代の根拠地となった。  
 《宝物》小谷山(小谷城跡)、葛籠尾崎湖底遺跡、尾上温泉、湖北野鳥センター、琵琶湖・水鳥湿地センター、湖北みずどりステーション、小谷城ふるさとまつり、八朔大祭

#### 虎姫町

《経緯》姉川・高時川・田川など豊かな水源に恵まれ、太古から人々が住み、田畑や集落が開かれたところ。「虎姫」という地名は、歴史と伝説の山「虎御前山」にちなんで付けられた。  
 《宝物》虎姫時遊館、県立虎御前山教育キャンプ場、五村別院、玉泉寺(元三大師)、三川丸山古墳、田川カルバート、フェスタin虎御前